

# 美の カケラ

dictionary of shiga

15年度の「美の滋賀」に携わった様々な方に、共通の質問を投げかけました。それぞれの活動内容、美の滋賀のこと、そして、滋賀の魅力についても。それぞれは「美の滋賀」のカケラかもしれませんが、そのカケラを集めていけば、知れざる滋賀が形作られるはずですよ。

## Question

- 1 「美の滋賀」の活動において、今年度のハイライト、脳裏に焼きついている瞬間を教えてください
- 2 同じく、心にのこった言葉
- 3 未来にやりたいこと
- 4 今年度出会った名店
- 5 これぞ「美の滋賀」という団体、活動
- 6 旅行者を案内したい滋賀の“美”的スポット

### NPO法人芸術村IN余呉実行委員会 白石香織

- 1 アール・ブリュットワークショップで、障がい者の方が粘土と触れ合うときの反応。ちいさくちぎってみたり、かたまりをそのままダイナミックに使用したりなど、それぞれ違って、興味深かったです。
- 4 今年度から新しく会場に加わった「NPO法人 子ども自立の郷 ウォームアップスクール ここから」が運営するコミュニティカフェ。施設を利用している子どもたちが作り上げるおもてなしの空間が素晴らしいです。
- 5 余呉町で独自にアートイベントを企画・活動されている「余呉小劇場弥吉」「べんがら座」。
- 6 余呉湖。毎日見えますが、とても美しく癒される空間です。

1981年生まれ、高知県四万十市出身。2013年1月に滋賀を訪れた際、その景観に心惹かれ、同年10月に余呉町へ移住。現在、一般財団法人湖北水源の郷づくり事務局職員として余呉町を中心としたまちづくり活動に携わる傍ら、NPO法人芸術村IN余呉実行委員会事務局を担当。

### 守山ちどり／滋賀ものづくりネット 浦谷千鶴子

- 1 矢橋帰帆島公園大原っぱ広場の「滋賀がいいもん市」で、X10(エクステン)のステージ、ダンスなど。
- 2 「滋賀がいいもん市」でのお魚クイズラリーから、「琵琶湖に昔から住む魚はどれだろう!？」。
- 3 矢橋帰帆島公園の自然の中で、3世代がゆっくりリラックスできる時間を過ごせると楽しいと思います。家族で1日中楽しめる広場づくりが目標。
- 4 シフォンケーキのりょうさん、三重で真珠を使ったアクセサリーをつくる[aki. Hana]、京都の[BRUGGE 洛北][ごほんぱん工房つぶつぶ]など。
- 5 NPO法人滋賀ものづくりネット、滋賀がいいもん市
- 6 琵琶湖大橋、石山寺

甘露煮、佃煮、鮒ずしなど、琵琶湖の川魚料理を自家製調理しています。琵琶湖の魚にも四季があり、その時期にしか味わえない旬があります。琵琶湖に住むからこそ、この旬の味を多くの人たちに伝えたいです。現在は滋賀や京都を中心に自家製の川魚料理を広めています。

### 信楽陶匠会 大谷無限

- 1 保育園児が土をもらって、自分の思いで作品を作り出した時の表情や叫び声、会話。
- 2 楽しい、面白い、またやりたい、毎年やってほしい(小学校の先生)。
- 3 今後は信楽焼きのイメージアップにつながる提案をすること。信楽焼きを含む、日本六古窯を薪窯陶芸のユネスコ世界無形遺産に…。
- 5 障害者施設の生徒の作品。
- 6 信楽の歴史(信楽焼きや紫香楽宮跡)、美術(MIHO MUSEUM)、陶芸の森、おもてなし(陶芸体験)など。

1936年信楽町に生まれる。1980年文化庁在外美術研修員として、1年間アメリカ現代陶芸を研究。アメリカテネシー州名誉市民、ノックスビル市名誉市民、滋賀文化賞、秀明文化賞受賞。信楽陶匠会設立。

### アーティスト／BIWAKOビエンナーレ 河合晋平

- 1 ワークショップ参加者の創られた作品を事前に用意していた展示空間に置いて消灯した瞬間です。ワークショップで創ったモノが立派なアートに成るということを実証しました。
- 2 透明ホースでオルガノエラという名の架空の生き物を創るワークショップでしたが、小学生の参加者がとてもめり込んでくれて、母親に「将来オルガノエラを創る仕事につきたい」と言っていたのを聞いたことです。
- 3 20年以上も創り続けている「存在物」の歴史創りの継続と、そこで生まれた作品の生き物達を様々な人々にも創ってもらい、普及させることです。その中で、作品の元となる身近な素材の魅力を感じ取ってもらえたら嬉しいかぎりです。
- 4 近江八幡[クラブハリエ日牟禮館]
- 5 NPO法人エナジーフィールド
- 6 日牟禮八幡宮

1971年生まれ、大阪府出身。日用品や食材など、着目したあらゆる素材を主観的にとらえ、アートという環境の中で増殖し、成長し、衰退し、死滅する“存在物”に変え続けるアーティスト。美術館やイベントなどで作品発表やワークショップを行っている。2016年のBIWAKOビエンナーレに参加予定。

### 近江の祭り研究所 辻村耕司

- 1 展示会の会場となった「うの家」に食事に来られてた交野市の女性の団体さん。みなさんお着物で15名ほどが会場に来られて矢継ぎ早に質問攻め。華やかな祭りが守山にあることに驚かされていました。また、長刀を50年間作ってきた85歳の方も来ていただきました。
- 2 「やっぱり祭りは大事やね」と地元の女性たちが戸口を出るときに話されていたのが、とても実感がこもっていて印象に残りました。
- 3 滋賀県内各地でこのような展示を展開していくこと。また図録を作成していくこと。展示中、小学生の先生が来られて郷土学習で使いたいとおっしゃっていました。
- 4 守山・うの家の近くにある[三野紙店]。祭りで使う色紙(いろがみ)を販売されています。また、草鞋も取り扱っておられます。
- 5 長浜生活文化研究所
- 6 湖北の観音巡り

1957年滋賀生まれ。野洲市在住。関西学院大学中退。独学で写真の道へ。雑誌・企業社内誌・行政関係の出版物で写真を撮影。滋賀県にUターン後「湖国再発見」をテーマに、琵琶湖周辺の風景・祭礼等を撮影。主な出版物「比叡山を歩く旅」(山と溪谷社)、『近江の祭りを歩く』(サンライズ出版)など。近江の祭り研究所代表。

### 彦根仏壇事業協同組合 宮田法子

- 1 今回は、3日間のイベントで、美の滋賀で補助金をいただいたのは初日の夜のイベントでした。七曲がり通りにほのかに浮かび上がるろうそくの光の芸術が特に印象に残っています。
- 2 参加して下さった方々の笑顔が印象に残っています。
- 3 ありがたいですが息の長いイベントにしたいです。全国まで広がればいいですね。
- 5 第1番目は、当然ながら「七曲がりフェスタ」です。
- 6 彦根の人間なんで、彦根城、新緑の芹川堤の櫓並木。それから、高島のメタセコイア並木。

彦根仏壇事業協同組合 理事・事務局長。滋賀大学経済短期大学部経営学科卒業。ダイエットを執行するたびに太ります。なので、ダイエットを断念しております(言い訳かな…)。七曲がりフェスタをどうぞよろしく願いたします。

## NPO法人芸術村IN余呉実行委員会 辻川作男

- 1 多様な作り手によるパフォーマンスがすばらしかった。例えば「世界の子どもの絵展」におけるスペインとのリアルタイム協働展に共演してくださった人々、オール・ブリュットに関するワークショップに参加した子どもや障がい者の皆さん、本場イタリアオペラに魅了された聴衆の顔などである。
- 2 誇りを持って住み続けられる町をめざそうとする個々の強い思いにこそ、この事業の立脚の原点がある。その合い言葉が「物理的な過疎はやむを得ないが、心までいじける心の過疎をなくそう」である。
- 3 成熟社会における地域創造に「芸術文化」の軸は必要不可欠なテーマであり、余呉を芸術文化に満ち、人々を明るく魅了する地域にしたい。そのためには、もっとクオリティの高い作品の展示・創造や多様なアーティストが住み活動するきらりと光る地域になるよう、今後も運動を続けていきたい。
- 4 余呉湖観光館で夏に開催される、余呉湖を見ながらビールを楽しむ「余呉湖ふれあいビヤガーデン」。また、全国から誘客を図っているなれ寿司の名店「徳山鮓し」。
- 5 地域づくりとの関連であるなら、長浜市のアートインナガハマを主宰する「NPO法人芸術版楽市楽座」や「湖北オール・ブリュット展推進会議」。
- 6 鏡湖とまで言われる「余呉湖」。

1951年生まれ。現在、一般財団法人湖北水源の郷づくり事務局長、NPO法人芸術村IN余呉実行委員会事務局長を担う。多数の限界集落を有する長浜市余呉町(旧余呉町)にあって、緑豊かな自然や淀川源流の水、地域全域に残る賤ヶ岳の戦跡等の歴史文化、おいしい山菜や農作物など…すべて一級品である余呉の地域資源を自分自身の尺度で見つめ直し、持続可能なまちとなることを願って活動している。

## 滋賀ものづくりネット 浦谷誠人

- 1 子どもやご家族が集まってきて、真剣に紙芝居やゲームに参加してくれたこと。
- 2 滋賀のお魚クイズで、「琵琶湖の魚」が全く知られていなかったこと、またその学びの場が身近にないこと。滋賀の情報はテレビやネットの全国ニュースで知る。
- 3 当団体はものづくりにスポットをあてて活動しています。直接多くのおみなさんと触れ合いながら、滋賀の魅力を発信できればと考えてます。この春より、活動に興味をもってくださったアウトレット滋賀竜王さんと、「biwa! しが博」をすることになりました。
- 4 インド料理人のラジュさん、ペルー料理人のご家族、トルコ料理人のムハレムさん。
- 6 びわ湖と周辺の景色

滋賀のものづくりにスポットをあてた、NPO活動も今年で10年を迎えます。上手、下手に関わらず、ものづくりを楽しむ、それが活動の原点です。ものづくり作家さんが集まる手作り市場や子供たちに工作を教える30分ものづくり教室などが主な活動となっています。

## 特定非営利活動法人コミュニティ・アーキテクトネットワーク 辻村琴美

- 1 大津・琵琶湖疏水インクラインに水がない+扁額見れた+紅葉残る=大津市歴史博物館の樋爪館長もびっくり、という奇跡がありました。
- 2 「地元を知って元気になった」(沖島を白洲正子の視点で学んだレポーターの声)／「仏様と同じポーズをすると気持ちが通じるよ」(井上ひろみ先生の言葉、木之本にて)／「この会に参加すると何かできそうな気がする」(まとめの会の打ち上げで参加者より)／「関東から来ましたが、滋賀に住むことを考え中」(東京・もったいない学会の会員)／「事故がなく終わってよかった」(主催者)／「景観は人の営みがあって煌めくもの」(濱崎先生の講評より)など。
- 3 どこかと協働して、「語り部マイ★スター深い学び塾」の事業化。
- 4 守山市「うの家 忍ぶ庵」、草津「魚寅」、大津・等正寺「佐知's Pocket」、木之本「あいたくて書房」[すし慶]、沖島「汀の精」。
- 5 なでしこファーマーズ、深い学び塾、近江の祭り研究所、守山野外美術展、レイカディア大学、近江学、ふるさと絵屏風、近江環人地域再生学座、水の宝、湖国と文化、長浜み～な、M・O・H通信、安土城考古博物館の琵琶湖汽船との協同イベント、琵琶湖八珍、アートインナガハマ、陶芸の里資料館、国友鉄砲の里資料館、愛荘町、土山、甲賀忍術博物館、近代美術館、銅鐸。
- 6 田んぼ

1956年大阪生まれ。1990年新江州株式会社入社。2003年「M・O・Hもう通信」発刊。2007年コミュニティ・アーキテクト近江環人称号取得。2010年NPO法人環人ネット設立。2014年「文化で滋賀を元気に賞」受賞。

## NPO法人エナジーフィールド 中田洋子

- 1 「マイ・ブランシェ京都」との連携で、「BIWAKOビエンナーレ」参加作家のコシノヒロコさんとcircle sideのコラボレーション展示が今回のハイライト。同じ空間を共有し、コシノさんの作品を見入る人々に呼応して変化を見せるcircle sideの得も言われぬ美しい映像は、忘れられません。
- 2 「和歌山サローネ」との連携でお茶会を催した折に、お客様より、遠く昔は、和歌発祥の地として栄え、夏目漱石など著名な文豪も逗留した「あしべ屋」に、かつての活気が戻ったようだと言われたときの会話は印象深く残っています。滋賀より出向き、お道具、設えなどもすべて滋賀のもので揃えていったのですが、作品にも興味を持っていただき、また機会があれば、来てほしいと言われたことを嬉しく思います。
- 4 びわ湖の魚の佃煮やさん「近江佃煮庵 遠久邑」は最高に美味しいです。佃煮だけではなく、その場で揚げてくれるワカサギや鮎などは絶品!
- 6 佐川美術館

1980年関西学院大学文学部美学科卒業。1995年フランスへ移住し、現在に至る。2001年に故郷の大津市にて第1回「BIWAKOビエンナーレ」を開催。2004年の第2回より近江八幡市に移行。以後、八幡堀に面する築約180年の商家を拠点とし活動を続けている。2016年は第7回目の開催に向け準備中。

## 成安造形大学 加藤賢治

- 1 最終日、ヨシ松明を近江八幡の人たちのご協力で、奉火した瞬間が感動しました。
- 2 「近江に残されてきたものには、そのものの力がある」「ものが持つ力に圧倒された」などの話が、展覧会を通じて聞かれました。ものを通じて結ばれた人々のものに対する思いに心うたれました。
- 3 継続的に近江の素晴らしいポテンシャルを訴えるような展覧会を開催していきたいと思います。
- 4 彦根[COMMUNE]、大津のびわ湖真珠[神保真珠商店]
- 5 おうみ映像ラボの皆さん
- 6 比叡山横川地区(元三大師堂・恵心院・横川中堂)

成安造形大学社会貢献部門主査として勤務の傍ら、同大学附属近江学研究所研究員として近江(滋賀県)をフィールドに宗教民俗の研究を続けている。

## 特定非営利活動法人コミュニティ・アーキテクトネットワーク 福富雅之

- 1 「第3回 水とくらし(琵琶湖疏水ウォーク)」の時に参加者の方々から「サプライズな瞬間に出会えて良かった〜!」と笑顔で喜んでいただけたことが、とても嬉しかったです。大津市歴史博物館の樋爪館長もその初めての瞬間に、興奮気味で身を乗り出して写真を撮られていたことが脳裏に焼きついています。
- 2 まとめの会での、滋賀県立大学の中井先生からの言葉。「滋賀の何でもないことを地元の人を知ることが大事。それは先人が歴史と文化、風土を1000年以上かけて脈々と作ってきた。まさに、郷土愛の醸造」。
- 3 今年の3月からは、長浜を拠点にガイドツアーとして「自然観を大切にしたいツアーリズム」を実施し、地域の魅力を引き出していきますが、確立後は、滋賀県全域をつなげたツアーリズムを展開したいです。
- 4 大津・等正寺の中にある「佐知's Pocket」、キャラメルシフォンケーキが美味。石山の瀬田川沿いに15年11月オープンした「cafe fukubako」、石窯ピザ&手入れのコーヒーが美味。
- 5 私が活動して3年になる「和ウトドア」です。今年は、その活動を事業化していきます。
- 6 「湖北の観音の里」。京都生まれ、京都市育ちなので、京都の観音さまをいろいろと見てきましたが、「湖北の観音さま」は京都とはまた違った魅力に溢れています。

1969年生まれ。大学卒業後、アパレル業界に20年余り。2015年より地域ビジネスへ転身。長浜まちづくり株式会社でシェアスペース「湖北の暮らし案内所 どんどん」のディレクターとして、2016年3月末からのオープン準備中。4月発売予定の『ぐるっとびわ湖自転車の旅ーびわ湖一周サイクリング公式ガイド』(京都新聞出版センター)でコース執筆を担当。

## 滋賀大学経済学部3年／七曲がりフェスタ 田形優佳

- 1 「七曲がりフェスタ」1日目、夜のろうそくライトアップ。
- 2 彫刻の職人さんが、「50年近くこの仕事をしているけれども、いまだに毎日が修行だよ」とおっしゃっていたこと。
- 6 彦根市松原水泳場付近の琵琶湖の景色

滋賀大学経済学部3年次在学中。22歳。彦根市在住で出身は静岡県。大学では主に経営学を学んでおり、今年の9月からアメリカに留学予定。

## 信楽陶匠会 荒川智

- 1 野焼き会場では空高く燃え上がる炎とその熱さ。子供達に焼きあがった作品を手渡した時の笑顔。
- 2 焼き物の原点、野焼き。火を焚くのはやっぱり面白い。現在の焼き物はガスや電気の窯を使い焼いています。焼いている時は炎や熱さはあまり感じません。小学生の子供が「本当に炎から焼き物ができるんやね」と楽しそうに話していました。
- 3 来年度はもっと大きな炎で沢山の山の人達と「野焼きフェスティバル」を開催したいと思っています。広報活動に力を入れて日本各地や世界各国の人々と関わり、滋賀・信楽をもっとメジャーにしていきたいと思っています。
- 4 陶芸の森にある喫茶店[UP cafe]、粘土の[精土]、釉薬屋さんの[釉陶]、料理の[小川亭]。
- 6 信楽の[MIHO MUSEUM]

1971年、山形県新庄市生まれ。1992年、陶芸を志し信楽へ。1997年、大谷司朗氏に師事、2001年から独立して創作活動を始める。以来、展覧会多数。

## 湖北アール・ブリュット展推進会議

### 中野悟朗

- 1 「アール・ブリュットワークショップ」に参加いただいた皆さんが、陶土に触れながら緊張がとけ、日常から解放された時の表情が素晴らしかった。
- 2 「何つくってもいいの?」「好きなだけ粘土使っている?」。これらは、普段の施設での作業では得られない自身の高揚感といえます。
- 3 単発のイベントではなく、日常的に創作することができる場所、スタッフ、経済力を得たい。複数回参加される方は必ず違った表情を見せられます。それらと表現を繋げる機会を維持してこそ、初めて地域に認められる存在となるはずです。
- 4 マキノの喫茶[望雁]、彦根[喫茶スイス]
- 6 菅浦集落

1958年生まれ。1989年、大津市仰木の里にて築窯。現在に至る。素直な土の感触から、自分の想いをかたちにしていくことを信条に自身の作陶活動の傍ら、[テオリア]等で創作工房の講師も務める。日本新工芸展NHK会長賞受賞他、受賞歴多数。

## 彦根仏壇事業協同組合 鈴木達也

- 1 ろうそくでライトアップされた七曲がりの通りを見た瞬間。見慣れている町並みで、普段から美しいと思っていたが、このときの美しさは想像以上で驚いた。
- 3 このイベント(七曲がりフェスタ)を打ち上げ花火のように年に1回やるだけでは、まちづくりとしては効果が薄いと思う。このイベントで集まったメンバーを母体に、七曲がりの恒常的なまちづくり組織をつくり、小さなことでもいいので続けていきたい。そこに地域住民が少しずつ加わり、七曲がりとしての一体感が出てきて、地域が盛り上がればよいと思う。
- 4 沼波町の[旅LOVEチャイハネ]
- 6 七曲がり。大橋町と元岡町の境にある路地。

1986年彦根市生まれ。2009年、彦根市職員となる。市民団体「まち遺産ネットひこね」のメンバーとして、彦根城下町の歴史的資源を掘り起こし、まち歩きマップを制作。「七曲がりマップ」制作がきっかけで、2013年から「七曲がりフェスタ」の企画メンバーとなる。登録有形文化財の洋館を保存のために七曲がりに移築し、2016年春には移住予定。

## おうみ映像ラボ

### 長岡野亜

- 1 「8ミリフィルム映像上映会」で、「昨年亡くなった父が撮影した8ミリフィルムを20年ぶりに見ることができました」と母と娘で懐かしそうにニコニコと映像を見ながら語りあう姿。
- 2 元・木挽職人の田中新治郎さん(86歳)の言葉。「木を粗末にすると木の神様に申し訳ない」。木と共に生きてこられたそのお姿からは、木への感謝や愛情が溢れ出ていました。田中さんは、遠足「甲賀の木挽きに会いに行こう」でゲストとして参加していただきました。
- 3 老人施設でその地域の8ミリフィルム映像上映。滋賀県立近代美術館や琵琶湖博物館で、地域の映像のアーカイブや館内で映像の常時上映。
- 4 安曇川の[Famille(ファミリー)]
- 6 「ほんがら松明」の奉火(4月第3土曜日/近江八幡・島町) 近江八幡の松明が立ち並ぶ風景(3月下旬~4月中旬頃/近江八幡)

2006年から滋賀県近江八幡市で地域を元気にする映像プロジェクト「近江八幡映像プロジェクト」を行い、農村再生ドキュメンタリー映画『ほんがら』(2008年)を監督。「子ども映画づくりワークショップ2007 in 近江八幡」を開催。市民制作映画『結い魂(ゆいごん)』(2011年)を監督。2014年より「おうみ映像ラボ」を結成し、滋賀県内の地域に埋もれた映像を発掘して地域の方々と一緒に観るという、映像とコミュニティを繋ぐ活動を展開している。

## 草津ロータス よし笛アンサンブル/滋賀ものづくりネット 島田友代

- 1 中学生や外国人の方々によし笛を体験いただけたこと。よしを使った「びいびい笛作り」をお子さんたちとできたこと。
- 2 FM草津に出演した際、よし笛を初めて聞いたパーソナリティさんに「よし笛の音色は自然で優しいんですね」と感想をいただきました。
- 3 なかなかフルメンバーが集まりませんが、今回のよし笛体験やコンサートは貴重な経験になりました。これからも発表する場を楽しみに練習していきたいと思えます。
- 4 浦谷さんの[川魚専門店 守山ちどり]
- 5 滋賀県には、私たちのほかにもよし笛を楽しんでおられる団体がたくさんあります。
- 6 [草津市立水生植物公園みずの森]

草津ロータスが生まれたきっかけは、オカリナの演奏をしていた数名が、琵琶湖のよしを使った、よし笛に出会い、その素朴な音色に魅かれていったのが始まりです。今では20名を超えるグループになりました。全員で演奏会をするのは難しいですが、時間を合わせて、ライブやコンサートなどに参加してよし笛演奏を楽しんでいます。

## 湖北アール・ブリュット展推進会議

### 廣部猛司

- 1 「アール・ブリュットワークショップ」in余呉。大勢で、普段と違う環境での創作活動は楽しそうだったが、創作の現場を見て、他からの影響という面で考えさせられることが多かった。真のアール・ブリュットとは?
- 2 創作工房・ワークショップの講師との会話の中で「いつまでもトゲトゲの作品を見せられて、『これがアール・ブリュットだ』と言われても納得しきれないところがある」。まさにその通りだと思った。
- 3 人も作品も、もっと自然に社会に解けこむ空間を目指したい。共生社会と同様に、そんな空間づくりが今より更に進むとよいと思う。
- 4 余呉での地元産品の売店。安さにびっくり。商品から温かみを感じた。
- 5 黒田観音寺の観音様。地元の方々で堂守されている。日々の暮らしと信仰が結びつき、そこに優れた芸術性がある。
- 6 仏像めぐり

湖北アール・ブリュット展推進会議理事長。長浜のまちづくり活動に多数携わる。まちづくりと福祉とまちの賑わいをマッチさせられないかと苦心中。合併直後の長浜市役所では職員からしょっちゅう「何課の人でした?」と尋ねられたが、最近はやっと一般市民だと認識してもらえた。一応、本職はグラフィックデザイナー、趣味はまちづくり。いや、逆かもしれない。

## 絵本による街づくりの会

### 平松浩三

- 1 大勢の子ども達が絵本作家・市居みかさんの指導のもと、自作の絵本を作成し、実際に皆に発表した場面が最も印象に残っています。また、その作品が傑作ぞろいで大変驚きました。
- 2 「クロツラヘラサギのように、国境を越えて、国同士のいざこぎをすべて取り払って、みんなでこの地球に生きていることを喜び合いたい」。今関信子さんの講演で、韓国の学校と日本の小学校がクロツラヘラサギを通じて、交流するという奇跡について語った言葉が印象に残っています。
- 3 今回の事業を機に、本来なら11月から永続的に絵本美術館を開館する予定でしたが、結果的には、地権者の都合で18日間の期間限定の絵本美術館になってしまいました。是非とも、永続的に開館できる美術館の開館にこぎつけたいと思います。
- 4 高島市今津町の[Cafe Cozy]ギャラリー併設のおしゃれな雰囲気でのメニューも美味しいカフェ。地元手作り作家の作品を店内で販売。カフェ貸切でイベント開催もできます。高島市音羽の[田風流(ディンプル)]1年半前にオープンした田んぼの真ん中にあるカフェ。毎日限定8食のランチは、お手頃価格で地元の旬の食材にこだわり、ヘルシーでお薦めです。手作り大好きなオーナー作の1点物のアウターや地元作家のアクセサリ等も販売。
- 5 私の友人で写真家の松居直和さん(米原市在住)は、今回の事業でも里山の小さな小学校(昨年3月に閉校したマキノ北小学校)の写真展を開催してくださいました。彼は、ヴォーリズ建築をはじめ、多くの滋賀県の風景や人物の素晴らしい写真を撮影されています。今回、原画展でお世話になった永島正人さん(大津市在住)は、アール・ブリュットの作家です。守山市にある[はたらきペンギン]という私設ギャラリーで作品の展示をされています。「全日本アートサロン絵画大賞」(自由表現部門)を受賞されました。
- 6 冬で雪に閉ざされた在原集落のかやぶき民家

「絵本による街づくりの会」は、2004年にNPO法人化し、高島市を中心に「子どもの笑顔があふれる街に、豊かな心をはぐくむ街に」を合言葉に地道に活動してまいりました。昨年、その活動が評価され「文化で滋賀を元気に大賞」を受賞しました。会員数120名(賛助会員含む)。

## 絵本作家 市居みか

- 1 「絵本による街づくりの会」での絵本づくりワークショップの最後に、参加者の子どもたち大人たちが、自分で作った絵本を発表してくれた時のうれしそうなお表情。
- 2 絵本を作られた参加者さんの言葉「絵本って、思ったより簡単に作れるんですね！」。
- 3 今、自宅兼ギャラリーショップを建築中で、そこができれば、絵本の楽しさをいろいろ発信できるように場にしたいと思っています。
- 4 信楽のカフェ「あわいさ」[トラサルコーヒー]、湖南のステンドグラスの教室とお店「薔薇の木」
- 5 「絵本による街づくりの会」は、本当に素晴らしい活動をされていると思います！「びわこ1. 2. 3キャンプ」と「夏休みショートステイin信楽」は、福島や東北、関東の子どもたちを招いて、滋賀の美しい自然の中で遊んでもらう保養活動をしている団体です。
- 6 琵琶湖もいいですが、地元信楽だと「陶芸の森」です。

信楽在住の絵本作家。「絵本による街づくりの会」では、絵本作りワークショップと旦那さんのギターに合わせての絵本ライブを開催。絵本作品に『こぶたのブルトンシリーズ』(アリス館)、『オニヤンマ空へ』(岩崎書店)、『さんぼうた』(ポプラ社)、『すごいしょ』(学研)など多数。

## circle side / BIWAKOビエンナーレ 小笠原寛夫

- 1 「BIWAKOビエンナーレ」での地域の方々との交流。搬入時にいつも利用していた食堂の方が、実際に自分たちの作品を見に来てくださったと知った時。地域密着型の意義を感じました。
- 2 アート活動の拡大。
- 3 膳所のイタリア料理店「ペルナンブッコ」
- 4 BIWAKOビエンナーレ
- 5 白鬚神社

circle side は、アート、サウンド、デザインなどのジャンルを超えた作品発表をするプロジェクトとして、アーティスト、デザイナー、プログラマーら4人によって結成。メンバーは安積亜希子、小笠原寛夫、北村博朗、濱田裕司。

## 信楽まちづくりLab 実行委員長 今井智一

- 1 おくどはんの会場で見た、皆の笑顔とターフから覗く青い空に滋賀のほどよい暮らしを感じた。
- 2 お米ってこんなに美味しかったんや。普段の暮らしぶりを見直さな、あかんあ〜！
- 3 現代の暮らしを見直すための「おくどはん食堂」の運営と信楽の焼き物の連携。
- 4 近江八幡のお惣菜屋「三松」
- 5 針江のかばた
- 6 高島から望む琵琶湖の景観

1968年生まれ。京都工芸繊維大学 工芸学部意匠工芸学科卒業後、1991年に信楽窯業試験場釉薬科を修了し、丸滋製陶株式会社へ。2003年「信楽焼新総合展」グランプリ受賞。2013年イギリスの「TENT LONDON」に出展。

## おうみ映像ラボ 大藤寛子

- 1 「8ミリフィルム映像上映会」で、90代の男性が取り組んでおられた「西ノ湖」について雄弁に語っておられたこと。80代の男性が話したり、耳が遠いにも関わらず、催し数日前に新聞を見て会場へ息子さんに送迎してもらって参加くださったこと。会場内に展示していた、いくつかの上映機器について、動かし方などを参加者がイキイキと話されていたこと。
- 2 「今は手軽に撮影したり、映像を見たりできる時代だけれど、それが難しかった時代のものが、今また見られたこと。そして、その貴重な映像をスマホで撮影して、その場にはいない人にも見せられて本当に良かった。」
- 3 NHK地域づくりアーカイブスとの協働。滋賀県立近代美術館での地域の映像をアーカイブ、美術館内での映像の常時上映。
- 4 安曇川のパン&ケーキカフェ「Famille」。元・繊維工場でイベントスペースを併設されています。
- 5 「巨木と水源の郷をまもる会」琵琶湖の水量の3分の1は高島市から流れ込んでいます。その流域でトチの木を守る活動、山での生活の知恵を継承する活動をされています。この自然環境を守る活動は「美の滋賀」を象徴していると思います。
- 6 高島市新旭町琵琶湖湖岸・源氏浜付近で、冬の7時ごろに朝日が昇ってくる風景。

筏流し・シコブチ神社に関心を持っています。「おうみ映像ラボ」の他、「朽木の知恵と技発見・復活プロジェクト」「びわ湖高島・野鍛冶復活プロジェクト」や、京都の廃村を生かす「大見新村プロジェクト」に関わっています。

## 信楽まちづくりLab 出品作家 東島孝子

- 1 「土と手プロジェクト」において、[山熊倉庫]内で作品展示を行いました。このプロジェクトを通じ、多くの地域やスタッフの方々とお会いすることができました。また、会場である倉庫を提供してくださった方の、普段とは異なる倉庫内の様子を前にした、嬉しそうなお顔も印象に残っています。
- 2 信楽は、都心から離れた小さな町にもかかわらず、国内だけでなく海外からもたくさんのお客様があります。そのような人たちにこの町をよく知ってもらい、楽しんでもらえる町づくりを行うことで、信楽が魅力的な国際都市となればと考えます。微力ながらも自身の作品や、制作での経験が、そういった町づくりの一助となることを願います。
- 3 信楽町長野地区・明山窯の「Ogama」やきものギャラリーや実店舗、ワークショップスペースが併設されています。また、登り窯を眺めながら、信楽焼のうつわでお茶を飲めるカフェもあります。信楽町朝宮地区の手打ちそば屋「作美」店主こだわりの十割そばを食べることができます。信楽町江田地区の鶏肉屋「秋田かしわ店」新鮮な朝引き地鶏が美味しいです。
- 4 MIHO MUSEUM。奥琵琶湖。

1984年生まれ、大阪府出身。2008年京都市立芸術大学美術学部彫刻科、2011年ヘリット・リートフェルト・アカデミー(アムステルダム)陶芸科卒業。日本とオランダ・アムステルダムを中心に作品を発表。現在、信楽在住。

## 近江の祭り研究所 高岡健二

- 1 展示期間中、対象地の方々が地域を越えて交流をされているときは、事業の効果を実感しました。
- 2 滋賀県内の他の地域や団体と協力しながら、展示や事業を計画していく。
- 3 レセプションで使用させて頂いた「忍ぶ庵カフェ」
- 4 オコナイやノガミなど、神道・仏教などが混ざった民間信仰。そこで作られる道具や所作は、滋賀に生きる人たちの文化の結晶のように思えます。
- 5 対岸に昇る朝日と、沈む夕日。

滋賀県守山市在住。大学で民俗学を学び、滋賀県内の祭りやコミュニティに関心を持つ。現在は守山市のまちづくり会社に勤務し、中心市街地の活性化に取り組んでいる。私的な活動として、親子を対象としたワークショップや、創作活動も行っている。

## 特定非営利活動法人コミュニティ・アーキテクトネットワーク 本田明

- 1 自分が企画した「深い学び塾」のマキノでの第1回。マキノの雑木林にある、切り株の太いやマオヤジ。萌芽更新を利用した継続的な新生産の跡。それと、薪を流通する海津湊の古写真。自然エネルギーを利用した、継続的エネルギー生産の証がマキノには残っている。
- 2 「この(重要文化的)景観を守るためには、ここに生きる人の生業や、生活を守っていかねばならない。景観や建物などのハードだけではなく、そこでのソフト的な事業展開みたいなものと両方考えていかねば、「まちを守り続ける」活動にはならないのだが…」。
- 3 信楽もたくさん展示するであろう新生美術館と平等院鳳凰堂は、京滋バイパスを使うと30分もかからない。また、ガンダラ美術を所蔵するMIHO MUSEUMも意外に近い。そういう近傍の美術館や文化財等をシャトルバスで結ぶことが出来れば、幅広い美術鑑賞や集客になるのではないか。
- 4 「湖魚民宿 吉平(きちべい)」マキノ町知内漁港のすぐ近所にあり、季節ごとの琵琶湖の魚満載の料理をリーズナブルな価格で提供してくれる。
- 5 滋賀県立近代美術館の館蔵品を使った出張展示や出前授業は、とても良い企画だと思う。
- 6 木之本町・黒田安念寺のいも観音

1977年、国立岐阜工業高等専門学校建築学科卒。2014年より「ほんだ建築」代表。住宅を設計から完成までお客様といっしょに行うのが、最近の主な仕事。高島市の公共工事の設計もしています。2011年「滋賀県立大学社会人講座 近江環人地域再生学座」修了後、地域活動の関わりが多くなりました。

## 信楽まちづくりLab 調整担当 佐々木翔

- 1 初めておくどはんを試炊きしたときのことですが、うまく炊けているか分からない中、初めて蓋を開け、湯気の向こうにつやつやの白米が見えたとき。そしてその炊き上がったお米を一口食べたとき。
- 2 開催直前ギリギリに会場が完成。リノベを担当してくれた石野啓太さんが発した一言「できた」。
- 3 信楽にある様々な取り組みを蓄積し、整理し、発展させることが出来れば…。
- 4 「ラ コリーナ近江八幡」
- 5 「窯元散策路のWA」
- 6 比叡山ドライブウェイ

1987年生まれ、滋賀県南山市出身。同志社大学社会学部メディア学科卒業。大手飲食業にて1年間のマネージャー経験ののち、公益財団法人滋賀県陶芸の森勤務。総務課にて主に広報・施設管理・地域連携業務を担当。

## NPO法人芸術村IN余呉実行委員会 中山克己

- 1 「アールブリュット企画展」障がい者の持つユニークで比類のない感性に思わず目を奪われ、その誰にも影響されない世界に引き込まれた。／「世界の子どもの絵展」子どもの持つ感性の広がり、世界中の戦争や紛争をものともしない姿に衝撃を受けた。
- 2 私たちが数年前からこの事業を始めるにあたって、心に期した問題意識がある。それが「行政的な過疎化がどんなに進んでも、心の過疎だけは決してならないでおこう」という言葉だった。特に、後半の「心の過疎だけは決してならないでおこう」は、機会あるごとに繰り返してきた。
- 3 過去数回にわたって企画してきたものは、必ずしも田舎に住む人たちにとってその琴線に触れるものになりえていなかった。その反省を生かして、今年はこれらの人たちとの交流を重視したいと考えている。たとえば、地元在住の音楽家を活かした「ジャズとクラシックのジョイントコンサート」、余呉湖を活かした「余呉湖畔で野外音楽祭」、従来からある「余呉のオペラ」の再演など。
- 4 マルシェ形式の店を何店か出したが、出店数が少なく、天気にも左右されるため、一考を要した。
- 5 余呉にある2軒のギャラリー。[ギャラリー弥吉]…約250年前の「古民家」を改造して利用したもの。「ギャラリーべんがら座」…残景寺の境内にあり、もともとは保育園として使用していた場所。廃園になったものを住職が買取り、自らの手で改装し、ギャラリーにしたもの。
- 6 文句なしに推奨は「余呉湖」。春は、桜に彩られ、それが湖面に映える景色。夏はあじさいの満開に酔い、秋は、周辺の山々の紅葉を、冬は、一面の銀世界と、四季折々の風景を味える。

1941年、滋賀県、3村合併前の余呉村に生まれる。地元の小中高校を卒業。大学卒業後、愛知県で高校教諭。2003年Uターンで帰省。2006年「高レベル放射性廃棄物最終処分場」誘致反対の住民運動の後、「芸術村IN余呉実行委員会」「交響の郷～余呉」など、「まちづくり」を主なテーマとして活動する。

## 信楽まちづくりLab おくど飯担当 能登正太郎

- 1 ごはんが炊きあがり、親子連れが楽しそうに女将さんからご飯をついでもらっている瞬間。ウー氏のワークショップ会場の下見をしたとき
- 3 街のイベントとして「おくど飯」が定着し、信楽内外の方から認知されること。
- 5 「窯元散策路」の取り組み
- 6 白鬚神社。ソラノネ食堂。

有限会社バランス代表、Balance Design Company 主宰。「土と手プロジェクト」で「おくど飯」イベントを開催。

## 成安造形大学【キャンパスが美術館】職員 玉置慎輔

- 1 クロージングパーティとして、火の灯りで滋賀を楽しむ食事を開催しました。「和ろうそく 大輿」の和ろうそくのみで明かりを灯し、滋賀の地酒「七本鎗」、ビワパール陶土と釉薬を使用した酒器、そして、大学内のカフェテリア「結」特別メニューの料理を楽しむものでした。なんとと言っても最後に、本展のメインシンボルとしてグラウンドに3基立ったヨシ松明への点火は、迫力があり、素晴らしいものとなりました。
- 2 「滋賀県の魅力を博物館的ではなく、芸術/デザインの別の視点から見出されておりとてもよい」と来場者におっしゃって頂きました。
- 3 本事業「MUSUBU SHIGA 空想 MUSEUM -近江のかたちを明日につなぐ-」をアップデート展とし、今後も開催すること。
- 4 カフェテリア「結」紀伊國屋
- 5 おうみ映像ラボ
- 6 JR湖西線の車窓から見る、琵琶湖、三上山、比良

成安造形大学内にある9つのギャラリーを企画運営しています。成安造形大学【キャンパスが美術館】では、年間を通して様々な企画をしており、毎年秋にはテーマを設定した総合芸術祭「SEIAN ARTS ATTENTION(セイアンアーツアテンション)」を、すべてのギャラリースペースを利用して約1ヶ月間開催しています。

## 信楽まちづくりLab リノベーション担当 石野啓太

- 1 リノベーションしたギャラリー[旧藤喜陶苑]に、作品が入り展示された瞬間。また、学生たちの教育に貢献できる場所として活用されたり、まちの新しい場所(空き家)の使い方を提案できたこと。
- 2 地域の方に「良い場所になったね」と声を掛けていただいたこと。
- 3 信楽の新しいエリアイメージを発信するローカルメディア季刊誌の発行。リノベーションしたギャラリースペースの利活用の提案。
- 4 信楽のカフェ/ギャラリー[TORASARU]
- 6 MIHO MUSEUMの四季

1985年生まれ。滋賀県立大学大学院 修了。建築設計事務所を経て、現在、家業の明山窯に勤務。陶器製造・企画デザイン業務を担当。また、地元信楽をフィールドに若手有志と共にまちづくり/デザイン業務などに携わりながら、信楽の地域デザインを目指して活動。

## 音羽流滋賀邦舞研究会 音羽菊寿寿

- 1 初めての場所で緊張しながらも目をキラキラ輝かせて出番を待っている子ども達の顔！どんなに費用を積んでも出来ない、努力を続けている者だけが味わえる醍醐味の一つだと思います。
- 2 「芸術は子ども達にとって大切な情操教育である、特に昨今では学ぶ場の少なくなった和の文化で今後も子ども達の間人形成に力を注いでください」。
- 3 古典の基礎を踏まえた上でのあらゆる立地、特異な発想や場所(体育館や広場、四方や上からの目線にも対応出来るマーチング舞踊)での発表。青少年だけでの本格的な舞踊会の開催。流派を超えた人材の育成。
- 4 唐崎の小さな町のパン屋さん[BAKE HOUSE ウッドベッカー]、チーズと胡桃やフレッシュフルーツを使ったパンにハマります。高島市のうなぎ屋さん[西友]。苺の桜餅はここだけ、大津市京町の[餅兵]。[本のがんこ堂 唐崎店]。
- 5 主婦たちが滋賀の材料を活用して手作りした、作品展示即売会「プティローズ」の会。毎年、大津市旧橋本町の町家で開催。「美の滋賀」を一言で云うなら、“人”だと思います。ピュアで誠実！そんな人達の住む町、そんな人間で在りたいと思う人達の住む町！だからこそ美しい、風景も文化も。
- 6 高島市の白鬚神社から臨む、少し曇った日のびわ湖。真夏の烏丸半島の蓮の自然群生。

1945年、初代音羽菊寿々 大津音羽会設立。1950年、音羽流滋賀邦舞研究会に会名変更。1975年、二代目 音羽菊寿寿襲名。日本舞踊協会定例会、音羽流定例会、NHK邦舞番組、自主公演、他に出演。子ども体験教室、若手育成、地域行事指導なども。

## 湖北アール・ブリュット展推進会議 前田正史

- 1 余呉芸術村でのワークショップにて、陶芸の土の塊を床に何度も投げつける方がいました。それによって土が微妙な変形をしていく過程を見ていて、これこそ「アール・ブリュット」だと思った。
- 2 「自由に何かを作ることの難しさ」。ワークショップにて、一緒に参加しながら陶芸をやってみたが、自由に作っても良いといわれたら、なかなか手が動かなかった自分がいた。参加者の皆さんは結構、すんなり何かを作り出したことに驚いた。
- 3 湖北に自由に製作活動や展示ができる拠点作り

会計事務所に勤務する傍ら、娘が通っていた養護学校のPTA会長を引き受けたことを契機に、ユニバーサルデザインによるまちづくり活動にどっぷり漬かる。日々、様々な活動に携わり、それをライフワークにしている。趣味は自転車。

## 滋賀大学経済学部 准教授/七曲がりフェスタ 柴田淳郎

- 1 住民とスタッフが協働で、ローソクアートに点火しはじめた場面。七曲がり通りが人で溢れかえった場面。落語イベントで芦田家が満員になった場面。妖怪散歩のイベントで子どもたちが妖怪を楽しそうに追いかけていた場面。
- 2 仏壇事業協同組合の理事長(宮川孝昭氏)が「こんなに人で溢れかえった七曲がりを見たのは、何十年ぶりやろ？ うれしいわ！」とおっしゃった言葉。「若い人が町おこしでがんばってくれてる！」「来年はお店出してみよかな？」という七曲がりの住民の言葉。今回のフェスタを契機に、仏壇事業協同組合のフェスタから住民のため(自分たちのため)のフェスタになっていく可能性を感じたし、学生たちの努力も報われたと思えた。
- 3 伝統工芸+街並み+人(住民や学生)が融合した、彦根市を代表するお祭りのひとつとして彦根に定着してほしい！と強く願っています。そして、伝統工芸や古き良き街並み、彦根の伝統的な人のつながりの価値をもう一度、住民の皆様にも感じてもらい、彦根の伝統的な共同体の再建に向けて更なる努力が投入されることを望んでいます。
- 4 七曲がりの[旅LOVEチャイハネ]、彦根の[十二分屋]
- 5 本宮の芦田邸にて展示をさせていただいた、栗東にお住まいの柿元夫婦による「蹄鉄」、同じく「組紐」。「蹄鉄」は往年の名馬である「トウカイテイオー」の蹄鉄が展示されていた。また、「組紐」は優れた大物の作品が多数展示されていた。仏壇の七職、信楽焼、近江上布も本当に素晴らしいが、蹄鉄や組紐もそれに匹敵するくらいの芸術性と話題性を備えていると確信した。

- 6 やはり「彦根城及び彦根城下町」だと思います。複数ということでしたら、商人の町としての「長浜の旧市街」「近江八幡の旧市街」「日野の旧市街」「五個荘の旧市街」、職人の町としての「七曲がり通り」「上丹生」。

1975年生まれ。神戸大学大学院経営学研究所を修了後、滋賀大学経済学部特任准教授を経て、現在、滋賀大学経済学部准教授。専門は、「比較経営論」で、欧米・日本・中国・ベトナムの近代産業・伝統産業の経営比較を専門としている。